

## 期待される駅前観光案内所

ドンドンドンドン…力強い火の神太鼓の演奏が鳴り響く。

ラッピング列車『カツオ号』も祝福に

12月26日、枕崎駅前観光案内所のオープニングセレモニーが開催されました。

華やかなオープンとなった枕崎駅前観光案内所。今後、本市観光産業の拠点として期待されています。では、本市観光の現状はどうなのでしょうか。経済状況や観光客の価値観が変わってきた現在、一昔前とは観光の形態も変わりつつあります。各分野の観光に携わる方々のインタビューを交え、今後の展望について考えてみます。

平成18年に当時の駅舎を解体して以来、最南端の始発・終着駅としてどのように観光客らを連れ、多くの関係者が集まり完成を祝いました。

この案内所には、公募により選ばれた愛称があり、建物の上部にプレートが付けられています。市役所側から見ると『最南端駅』といいうのです。この案内所職員(写真右下)を雇用し3日間、職員が情報の収集や発信、観光案内などの業務を行っています。

市と市観光協会では、この観光案内所を本市観光産業の拠点にと考えていることから、二人の案内所職員(写真右下)を雇用しています。

参加者からは期待の声が上がり、多くの観光客らをもてなすなどが課題となつてきました。そんな中での完成にいたしました。

駅舎が完成すれば、その観光客らを駆けめぐらせる車両の運行が実現する。JR指宿枕崎線は西穂駅まで楽しい旅を提供してくれました。

突然ですが、JRの協力で、ラッピング列車『カツオ号』が運行しました。保育園の園児や家族連れの客ら約140人を乗せた列車は西穂駅まで楽しい旅を提供してきました。

一度も利用しないという人も多いかもしれません。

最近、ローカルの旅がやっています。最南端始発駅からゆっくり、のんびりと旅するのもいいかもしれません。



①火の神太鼓の演奏で始まった枕崎駅前観光案内所のオープニングセレモニーでは大勢の人たちが完成を祝いました。②オープニングセレモニーに合わせてラッピング列車『カツオ号』が運行。園児らは揺れる列車を楽しんでいました。③市グリーン・ツーリズム協議会の山崎巳代治会長がエコツアーで訪れた観光客にドラゴンフルーツを手に説明。参加者は熱心に聞き入っていました。

## 考えよう！枕崎の観光

華やかなオープンとなった枕崎駅前観光案内所。今後、本市観光産業の拠点として期待されています。では、本市観光の現状はどうなのでしょうか。経済状況や観光客の価値観が変わってきた現在、一昔前とは観光の形態も変わりつつあります。各分野の観光に携わる方々のインタビューを交え、今後の展望について考えてみます。

## 本市観光の現状と新しい可能性

課題は安定的な観光客の確保

本市の観光入り込み客数（市外からの観光客数）は、平成10年の92万人（うち宿泊客数28万人）をピークに減少しており、平成20年は58万人（うち宿泊客数26万人）でした。

これは、大型バスでの社員旅行・観光ツアーの減少など景気に影響されていますが、枕崎の良さや特色を生かせず、PRが十分でないことも原因とみられています。市観光協会が実施している観光キャラバンや観光ボランティアガイドによるおもてなし、など観光客に力を入れてはいますが、時間を通じて安定的な観光客を集め地域経済活性化させることの困難な通じるところです。

このように、近年注目を集めているのが、都市部の住民が主に参加する体験型観光です。これは、地域の特色ある資源を生かし、各団体が協力・連携し観光客をもてなすものです。1月23日、NPO法人エコ・リンク・アンシェートショントークン協議会山崎巳代治会長の案内でも、ぽんかんなどの果物狩りをしたあと、木口屋集落にある

### 注目される体験型観光

展していく可能性を秘めています。

NPO法人エコ・リンク・アンシェートショントークン協議会山崎巳代治会長の案内によると、今年は「おもてなし」をテーマに、地域の資源を活用して、地域経済活性化させることの困難な通じるところです。

このように、近年注目を集めているのが、都市部の住民が主に参加する体験型観光です。これは、地域の特色ある資源を生かし、各団体が協力・連携し観光客をもてなすものです。1月23日、NPO法人エコ・リンク・アンシェートショントークン協議会山崎巳代治会長の案内でも、ぽんかんなどの果物狩りをしたあと、木口屋集落にある

一体となつた『観光枕崎』PRを作り、多くの市民が活用するようになります。

本市の体験型観光ではこのほかにも、市グリーン・ツーリズム協議会が行っている都会の修学旅行生を民家で受け入れ宿泊・学習体験をさせるものなどが活動を行われ始めています。

趣味や嗜好の変化で観光に対するニーズが多様化してきた今、このような体験型観光は更に発展していく必要があります。

### interview

市観光協会 揚野卓郎 会長



枕崎のことをもっと知ってほしい好きになってほしいそれが観光産業の発展につながる

■枕崎にはいい素材がいっぱいあります。世界的な漁港、南国温泉、枕崎茶など出せば切りがありません。オルゴールの編曲者として有名な田代和夫さん生誕の地でもあります。オルゴールを利用したまちづくりもいいかもしれません。例えばJRの出発・到着の合団に使ってもらうとか、観光案内所で流すとか、商店街を歩いていると流れているとか。

しかし、やはり一番はおもてなしの心です。枕崎の人たちの心は温かい。これは財産です。地元のことをよく知ってもらいたい。知れば知るほど自分のまちが好きになる。それが観光産業の発展にもつながっていくと思います。

まつおひめこ 松尾一女さん（右）

片平山公園から枕崎を眺めるのが好きです。活気あるまちになるよう少しでも役立てればと思っていました。

にわかやま ひさこ 庭山久子さん（左）

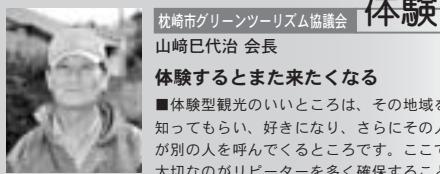
14年前まで東京に20年程いた私にとって枕崎は大切なふるさと。観光客にいい思い出を持って帰ってほしいです。

※毎日午前8時30分～午後5時15分まで一人が業務をしています。

### 案内所職員紹介



## 観光最前线 観光のいろんなカタチ



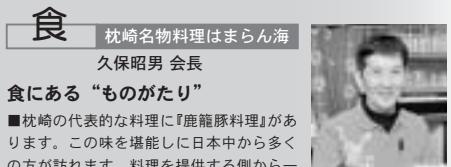
### 体験

枕崎市グリーン・ツーリズム協議会  
山崎巳代治 会長

体験するとまた来たくなる

■体験型観光のいいところは、その地域を知ってもらい、好きになり、さらにその人が別の人を呼んでくるところです。ここ大切なのがリビターを多く確保すること。

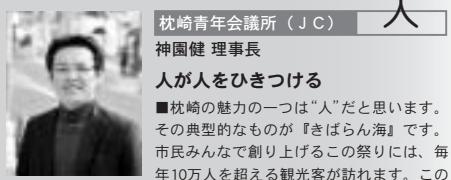
季節ごとのメニューを開発し、参加者が何回来てもあきないような工夫が必要です。そのためにも、いろんな団体が交流し、情報交換・協力しあうことが大切になってくると思います。それと、もっと枕崎の特産品を自慢してください。水産物にしても農産物にしても日本一のものや自慢できるものがたくさんあります。これからは、自慢できるものをもっと売り込む努力が必要です。



**食** 枕崎名物料理はまらん海  
久保昭男 会長

食にある“ものがたり”

■枕崎の代表的な料理に『鹿籠豚肉』があります。この味を堪能しに日本中から多くの方が訪れます。料理を提供する側から一番大切なことは、それは、すばらしい食材をつくる生産者がいることです。いいものを使えばお客様は喜んでくれます。しかし、美味しいものならどこでも食べられる時代です。そこで“ものがたり”を加えたらどうでしょう。さまざま苦難を乗り越え伝承された伝説の黒豚『鹿籠豚』を発祥の地で口にする。そこには口を感じることでしょう。このように今後は付加価値をどのように付けるかがカギになってくると思います。

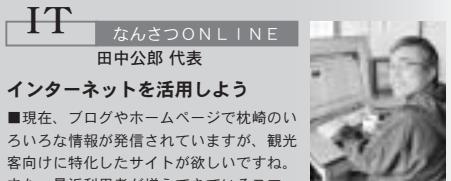


枕崎青年会議所（JC）

神園健 理事長

人が人をひきつける

■枕崎の魅力の一つは“人”だと思います。その典型的なものが『きばらん海』です。市民みんなで創り上げるこの祭りには、毎年10万人を超える観光客が訪れます。この祭りで枕崎の人の“熱く温かい人情”を感じる人も多いのではないかでしょうか。JCが昨年開催したバスツアー『枕崎大好きツアー』でも、市民のたくさんの方にツアーへの“おもてなし”をもらえた大変好評でした。聞いた話によると、参加した一人は「枕崎いいところだよ」と數人を引き連れて再び訪れたというのです。このように、人が人をひきつける。そんなまちなのかもしれません。



**IT** なんざつONLINE

田中公郎 代表

インターネットを活用しよう

■現在、ブログやホームページで枕崎のいろいろな情報が発信されていますが、観光客向けに特化したサイトが欲しいですね。また、最近利用者が増えてきているスマートフォン（パソコンのような高度な機能の付いた携帯電話）で、GPS位置情報を利用した観光案内も若者には効果的だと思います。日本でのインターネットの普及率が70%を超えている今、ネット検索して出てくる観光地やお店と、出てこないそれとでは大きな差が出ます。慣れてくれば簡単で安上がりのインターネットをフル活用すべきだと思います。